

# 室谷川、駒形沢

窪田道男

■山行年月日:2021年6月10~11日

■メンバー:窪田道男

学会出張予定であったが、Web会議も併用（オンデマンド）なので、30度越えの晴天予報を利用しての沢登りを計画した。折角の夏の暑さの予報なので、泳いで楽しめる、以前（20年以上前、単独でスラブの駒形山へ登り、頂上から反対方向へ降りようとザイル出そうとして、途中でザイルを落としたようなので探したが見つからず、そのまま戻った苦い記憶。あの頃は元気だったなー。魚もたくさんいた。）行ったことのある室谷川、駒形山に決めた。

早朝、会津を出発。津川インターで高速を降り、室谷への快適な舗装道路は、ほとんど車は走っていない。会津から1時間30分くらいで、室谷川の大久藏沢の分岐に到着。堰堤のところに、この先通行止めの留め具が置いてあったが、まだ先もきれいな舗装道路が続いている様子である。

沢支度をして朝7時頃には歩き始める。少し道路沿いに進み、室谷川に降りる。まだ朝早いので暑くはないが、天気は快晴である。また、これからコースタイムは、泳ぎで印刷しておいた地形図のインクが溶けてしまい判然としなくなってしまったので不正確です。後はGPSのみ。快晴、無風の中、快適な河原歩き。周囲のうつそうとした樹々が、何

とも言えない山深さを感じさせる。駒形沢の出合まで30分。そろそろゴルジュで水深が深いところを泳ぎだす。流れは緩いが、やや水が冷たく久しぶりの泳ぎのため、なかなか進まないものだ。また、最初、ザイルを引いて泳いでいるうち、ザイルが足に絡まりパニックってしまった。40~50mほどの泳ぎであったが、緊張もあり疲れた。その後長い渕が3か所あり、3か所目はちょっと長そうだったので、左岸を高巻きし、ちょっとの懸垂をして河原に降りた。広い大きな釜を持つ5mの滝が現れ、大岩魚でもいそうなので竿を出すぐ、粘ったがあたりなし。

滝の右側の取り付きまで泳ぎ、そこから登るがぬるぬるで緊張した（落ちても滝っぽ大きいので危なくはないが）。滝を登るとまたすぐの泳ぎが続く。陽も昇ってきたが、やはりまだ冷たい。ここを過ぎると河原も開け、陽ざしも明るく暖かい。高低差もなく駒形沢の出合に到



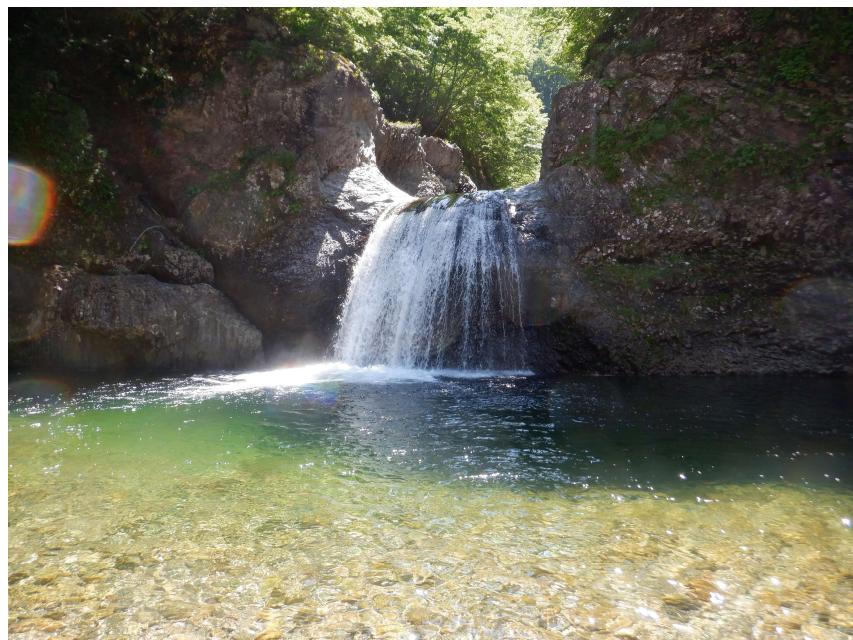
最初の渕

着。ここで再度竿を出し、釣りタイム。小ぶりの岩魚をゲットしたところで、根掛かりのため持ってきた針 3 本が無くなってしまい終了。

駒形沢は、滝が出てきて楽しめるが、ぬめりが酷いので慎重に越していく。だんだんと大岩がある河原を進むが、身体がしんどくなってきたので、少し河原の上が平坦な部分で、BC を設置。午後 2 時頃に簡易テント設営、焚火を起こしウィスキーをたしなみ始めたころには本日の行動は完了モード。一人なので気ままな沢旅、昼寝。

次の日は、4 時半ごろには明るくなり、コーヒーを沸かし、昨日の焼き枯らしの岩魚ラーメンの朝食。のんびりしても 6 時前には準備完了し出発。今回はこれで帰ることにした。帰りは、泳ぎの部分下流へ向かうので楽ちん。昨日の高巻いた長い渕も泳ぐ。ただ泳いでいるうちに、

ザックがだんだんと沈むようになってきた。荷物の防水が不十分で中身が濡れているようだ。泳ぐたびに荷物が重くなる。今日も天気が良好で、陽ざしのある所は暑い。のんびり深い森の中の歩きを楽しみながら、コーヒータイム。午前 10 時には、駐車した堰堤近くの広い河原に到着した。ザックの中身は、すべてびっしょり、ザック、テントなど濡れ物を、じりじりの太陽で乾かす。小 1 時間、近くの木陰でのんびり昼寝をして、会津に帰郷。



大岩魚のいそな滝